

岩手からの学生との交流会

8月7日(月)午後6時半より、「東日本夢の架け橋プロジェクト」に岩手から参加されている宮古水産高校の生徒2名、先生1名そして責任者の大島健志郎さんを囲んで、当会員で宮古市出身の和美(わみ)さんがオーナー兼寿司シェフの“イナセ寿司”において、当会から8名が参加して、懐かしい岩手弁を交えての和気藹々とした交流会となりました。

このプロジェクトは3・11の震災の翌年から始められ、宮城、福島、岩手と毎年順繰りに水産高校の生徒と先生数名をNYに招待し、アメリカ人宅にホームステイしながら様々な研修等を通じて経験を積んでもらうもので、3年前に続き岩手県宮古水産高校から2回目の参加です。

震災から早くも6年が過ぎましたが、大人の私たちにとってはついこの前のように思いますが、高校2-3年の彼女達は当時まだ小学生だったそうで、6年という歳月の長さをあらためて実感しました。

滞在中には、米国内の魚の流通に関する研修や、英語研修に加えて、研修の終わりには英語でのプレゼンテーションが予定されており、海外が初めてという生徒もいるようですが、この機会にたくさんの経験をして、一回り大きくなって宮古に帰ってもらいたいものです。

お土産として宮古水産高校で製造された“さんまの缶詰”をいただきました。その場で開封し試食を試みるも、6ヶ月くらい置かないと熟成されず美味しくならないとのアドバイスに、製造日より6ヵ月後の10月に、今回の参加メンバーで試食会を開催する事にし、それまで楽しみに保管する事になりました。



NY 岩手県人会、佐々木まり子幹事様からのご投稿 (2017.8.24)